

薬理学・薬理学実習

【通年】集中  
池田康将

ここで紹介された資料は**蔵本2階授業サポートナビコーナーにあります**ので、どうぞご利用ください。  
(同じ本が3冊以上ある場合は★の場所にもありますので、そちらもご覧ください)

図書

授業のテーマをつかみ事前学習や復習を効率的に進めるために、これらの図書を読むことから始めましょう

<参考書>

- **Basic & Clinical Pharmacology (Basic and Clinical Pharmacology) (15TH) / B. G. Katzung / T. W. Vanderah 2021**

→ 米国医学部の薬理学教育に使用されている標準的な教科書。医学英語に親しむためにも是非この本で勉強して欲しい。日本語訳もあるが版がかなり古いので注意 (カッツング薬理学 エッセンシャル 原書 10 版)。

【491. 5 || Ba】
- **Katzung & Trevor's Pharmacology, 13th ed. – Examination & Board Review 2021**

→ 上記” Basic & Clinical Pharmacology 14th ed.” のエッセンシャル版で、重要項目が明解かつ簡潔に要約され、フルカラーの大きい図でわかりやすく解説されている。一つ前の版の日本語訳もある (カッツング薬理学 エッセンシャル 原書 12 版)。

【491. 5 || Ka】
- **Goodman & Gilman's the pharmacological basis of therapeutics 13<sup>th</sup> ed. / Brunton, Laurence L., Ph.D. (EDT) Chabner, Bruce A. (EDT) Knollmann McGraw-Hill 2018**

→ 世界的な薬理学の教科書。医学生にとっては内容が豊富すぎる感はあるも、卒業後も臨床業務時に辞書的に活用できる。一つ前の版の日本語訳もある (グッドマン・ギルマン薬理書〈上〉〈下〉—薬物治療の基礎と臨床 原書 12 版)。

【491. 5 || Go】
- **New 薬理学 改訂第7版 / 田中千賀子, 加藤隆一編 南江堂 2017**

→ 日本語の医学生用薬理学教科書の代表的な1冊。受容体や細胞内情報伝達機序などの生化学的な作用機序の記載が優れている。

【491. 5 || Ne】
- 「新しい薬理学」(西村書店)

【491. 5 || Ka】
- 「FLASH 薬理学」(羊土社)

【491. 5 || Ma】
- 「エース薬理学」(南山堂)

【491. 5 || Es】

上記3つは平易な内容で比較的ページ数も少ないため、薬理学を学ぶ最初の1冊としておすすめできます。